

「鹿島離島住民センター」 鹿児島県薩摩川内市

甌島は、鹿児島県薩摩半島の西方、東シナ海上約30kmのところであり、上甌島、中甌島、下甌島の3島からなる。鹿島地区は、下甌島にあり、海に囲まれ、平坦地がない地理的条件のもとで、古くから、ブリ、カツオ、イワシ等を対象とする漁業を中心に生活を営んできた。

江戸時代初期にはイワシ網漁業の豊漁(干して肥料とされた)により巨利を得、派手に振舞うものも出る様な(「イワシ世間」と称される)時期があった。明治後期にも棒受網漁法によるイワシ漁が豊漁で浦が潤った時期があったが、昭和初期には、資源の枯渇により、イワシ漁業は消滅してしまった。

大正期から昭和期にかけては、特にブリ大敷網が盛んであった。大正期には、豊漁が続く、親方連は、旧川内市内で芸者をあげて宴会を開く(「ブリ大尽」の名を馳せた)こともあった。やがて昭和期に入ると、漁獲が減少し、資金に窮す

ようになった親方連が、ブリの買い付け業を行っていた大分県佐伯市の福良猛太郎を頼り、資材の提供や漁獲物の販売を引き受けるようになった。福良は常時40隻近い漁獲物の運搬船を持ち、また、冷凍

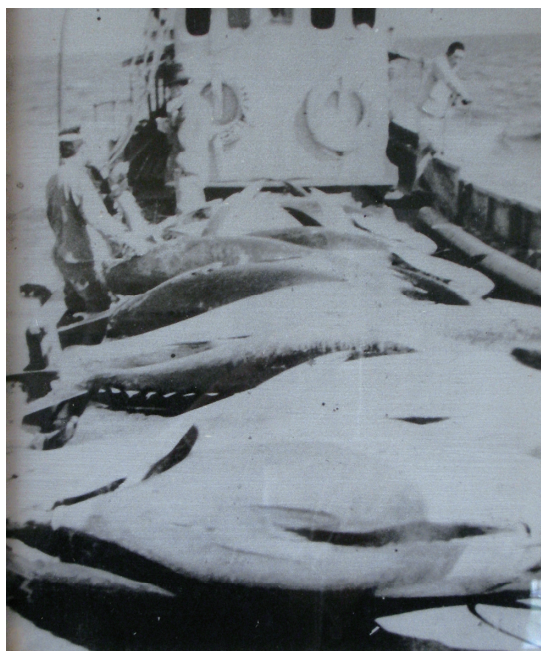
等の技術を導入し、鮮魚の広域出荷を導入する程、盛んに商売を行った。

住民センターは、福良が最も盛んに商売を行っていたところに、貯氷施設として建てられたもので、当時の地区の勢いが偲ばれる建物である。建築に際しては、当時の地区長が漁民に呼びかけるとともに、政府(商工省)に勤務していた地区長の実弟を通じ働きかけ、国の補助金を得ている。当時、子弟を東京の大学に出すことは、多くみられたという。

建物は、甌島では初めての鉄筋コンクリート建築であり、県内でも極く初期のものとされる。軒、壁面等に装飾をつけたアールデコ建築で、柱型に面取を施している点に特徴がある。



住民センターが建設されたところの
福良猛太郎(橋野氏所蔵)



昭和17年 マグロ漁の様子
このころ、マグロの大漁(定置網)が続いた
(鹿島地区歴史民俗資料室所蔵)